●日露戦争の時代は、どんな時代だったのか ▽武士道精神の 色濃く残った時代 ▽旅順を攻略した 第3軍司令官乃木希典大将は 降伏したステッセルに サーベル着用を許した ▽唱歌「水師営の会見」(佐水橋)で

「昨日の敵は今日の友」と 愛唱されたが 明治天皇の ご指示でもあった

日露戦争で一番苦戦した戦場・旅順

延べ13万の将兵が攻略するのに4か月半もかかり、1万9304人の戦死者を出した。陥落の第1報は、元日の深夜にもかかわらず、明治天皇に真っ先に報告された。「明治天皇紀」は「宸色甚だ快然なり」と天皇の喜びを伝えている。そして「祖国のために尽くしたステッセルに、武士の名誉を与えよ」との天皇の言葉は、直ちに参謀総長山県有朋から乃木大将に打電された。

「敵将ステッセルより開城の提議を為したる 趣、伏奏せし処、陛下は祖国の為めに尽くした る勲功を嘉し賜い、武士の名誉を保持せしむ る事を望ませらざ。右、謹んで伝達す」

▽名誉 信義 礼節 情けを 大切にした時代 ▽連合艦隊司令長官東郷平八郎大将は

日本海海戦で 重傷を負い 捕虜になった ロジェストウェンスキイ中将を 見舞った

「日本では勝敗は兵家の常と申します。祖国のために立派に戦って義務を尽くせば、軍人の名誉は傷つきません。私は、閣下とその将兵が実に勇敢に戦われたのを、この目で見て、感激しました。閣下のために病院船を一隻準備させておきます。健康を回復されて、帰国を希望される時は、いつでもご用命下さい」

▽海軍大臣山本権兵衛は 見舞いの花束 「閣下が祖国の為め勇戦奮闘 以て武将たる本分を尽くされたるは、 予の深く敬意を表する所にして」と 添え書き

乃木 希典(のぎ・まれすけ)

嘉永2(1849)~大正1(1912)長州支藩の 長府藩出身。陸軍大将。西南戦争で連隊 長として出征、軍旗を奪われる。台湾総督、第11師団長を経て日露戦争で第3軍 司令官として旅順を攻略。明治40年学 習院長、昭和天皇の教育に当たる。明治 天皇の大葬当日、静子夫人と殉死

ステッセル(Anatolii Stessel)

1848~1915 日露戦争で旅順要塞司令 官。戦後軍法会議で死刑判決を受け、禁 固10年に減刑。晩年は行商をしていた

山県 有朋(やま旅・ありとも)

天保9(1838)~大正11(1922) 長州藩出身。陸軍大将・元帥。明治6年陸軍卿となり軍制、徴兵制を確立。18年伊藤内閣内相。22年首相。枢密院議長を経て日清戦争で第1軍司令官。31年再び首相に就任し、軍部大臣現役武官制を実施。日露戦争では参謀総長。元老として長州閥を率い、陸軍、政界に君臨した

東郷 平八郎(とうごう・へみはちろう)

弘化4(1847)~昭和9(1934) 薩摩藩出身。海軍大将・元帥。海大校長、常備艦隊長官、舞鶴鎮守府長官。明治36年連合艦隊長官に就任し日本海海戦でバルチック艦隊を破る。「海軍の神様」と仰がれ、ロンドン会議(職5年)で軍縮条約締結に反対、海軍分裂の一因となる

ロジェストウェンスキイ(Rozhdestvensk ii) 1848~1909 ロシア海軍中将。長年 侍従を務め、日露戦争で第2太平洋艦隊 (ババチック艦) 長官となり、日本海海戦で敗 れて重傷を負い、捕虜となった ▽ローゼン公使(鵬)が 帰国する時 朝日新聞は「送別」の社説を掲載した

●藤原正彦さんが「国家の品格」を書いた動機は、「武士 道精神の崩壊にあった」

- 藤原さんは「時代の証言者」(読欄)で -

バブル崩壊の後、自由とか公平ばかりを追求する市場原理を採り入れた結果、日本は思いやりとか、卑怯を憎む心意気をなくした。今こそ武士道精神を、と声高に述べた。言論界から総スカンを食ってもいい、そうなったら筆を折って、また数学に戻ればいいだけだと思い定めて書いた。

日露戦争くらいまでの日本は、本当に立派な国でした。ロシア兵捕虜を各地の収容所で手厚く治療したり、近辺の温泉や小学校の運動会に招くなど、武士道精神で遇したのです。明治時代の将軍はみな寺子屋や藩校で読み書き算盤、論語の素読といった教育を受けた世代です。即興で漢詩を作る素養があり、高い道徳性を身につけた人たちでした。(平19年12月24日)

●明治のリーダーは、自ら武士として維新の風雲を潜 り抜けてきた

▽武士としての美意識を 心に強く 残した人たち ▽乃木は 日本海海戦の祝賀会で

乾杯の音頭をとり「こちらの喜びの陰に 先方の不幸がある。それを忘れぬようにしたい」 ▽旅順・白玉山の 日本将兵表忠碑は

明治42年11月28日に 除幕式 ▽ロシア将兵1万4631名の忠魂碑は 2年半も早く 40年6月10日 小案山子山で

●大きな特徴は、言論統制がなかった
▽自分の主張を はっきり言える
この前にも 後にもない 大らかな時代だった
▽新聞 議会が

「軍の作戦がおかしいから、こんなことになった」と 軍のヘマを 非難 批判した

山本 権兵衛(やまもと・ごんべえ)

嘉永5(1852)〜昭和8(1933) 薩摩藩出身。海軍大将。明治26年大佐で海軍省主事、海軍改革に手腕を発揮。軍務局長を経て31年海相となり「六六艦隊」を整備した。39年まで在任。大正2年、12年首相

ローゼン(Roman Rosen)

1847~1922 ロシアの外交官。明治30年 駐日公使となり、36年再び公使。38年駐 米公使。ロシア革命でアメリカに亡命

--「送ローゼン公使序」-

「東京駐剳露国公使ローゼン男、将に其国旗を撤し其随員を率いて還らんとす。男の日本に於ける、実に一熟友たり。男既に日本を愛す。日本人か男を愛す…国として相戦ふの已むを得ざるに際会しても、人としての交際あるで疑はざるなり…国としての交際存在す。此に於ても、人としての交際存在す。此に於て地言あり、此贐(はが)あり。併せて男の行程の安全ならんことを祝す」

「それもこれも天皇陛下の御稜威によって海軍は大勝を得た。が、忘れてならぬのは敵が大不幸を見たことである。 わが戦勝を祝すると同時に、また、我々は敵軍が苦境にあるのを忘れぬようにしたい。 彼らは強いて不義の戦いをさせられて死についた立派な敵であることを認めてやろうではないか」

- ロシア将兵の忠魂碑

煉瓦塀をめぐらした境内には、数多 くの十字架の墓標が林立し、工費4万 円で明治39年3月に竣工した。正面に はロシア文字で「旅順防禦戦ノ露国 ●太平洋戦争は、機動部隊の真珠湾攻撃で幕を開けた ▽ハワイ作戦は

「昭和16年度帝国海軍作戦計画」には なく 全く 連合艦隊司令長官山本五十六の発想 ▽原点は 日露戦争で 少尉候補生として 巡洋艦日進に乗っていた時の 強烈な衝撃

2度の駐米経験「デトロイトの自動車工業とテキサスの油田を見ただけでも、アメリカを相手に無制限の建艦競争を始めて、日本の国力で到底やり抜けるものではない」

- 山本のハワイ作戦構想 ―

▽海軍次官時代 日独伊三国同盟に反対

昭和16年1月7日、及川古志郎海相に「戦備二 関スル意見」を提出した。欄外に「大臣一人限 御含迄、誰ニモ示サズ焼却ノコト」と朱筆の入 った意見書は、開戦劈頭採るべき作戦にハワ イ攻撃を明らかにし、「勝敗ヲ第一日ニ於テ決 スルノ覚悟アルヲ要ス」として「月明ノ夜又ハ 黎明ヲ期シ全航空兵力ヲ以テ全滅ヲ期シ敵ヲ 強襲ス」となっていた。

理由として「作戦方針二関スル従来ノ研究ハ 是レ亦正々堂々タル邀撃作戦ヲ対象トスルモ ノナリ、而シテ図(上)演(割等ノ示ス結果ヲ観 ルニ、帝国海軍ハ未ダー回ノ大勝利ヲ得タル 事ナク…演習中止トナルヲ恒例トセリ」と、日 本艦隊に勝ち目のないことを指摘した。

「(ハワイ攻撃をせぬ場合)敵ハ一挙二帝国本 土ノ空襲ヲ行ヒ、帝都其ノ他ノ大都市ヲ焼尽 スルノ策ニ出ザルヲ保シ難シ。若シ、一旦此ノ 如キ事態ニ立至ランカ…我海軍ハ輿論ノ傲攻 ヲ浴ビ、延テハ国民ノ士気低下ヲ如何トモス ル能ハザルニ至ランコト、火ヲ観ルヨリ明ナ リ。(日露戦争浦塩艦隊ノ太平洋半周ニ於ケル 国民ノ狼狽ハ如何ナリシカ。笑事ニハナシ)」

●ウラジオストックを基地にした巡洋艦艦隊の通商破 壊作戦に翻弄された

▽ロシア グロンボイ(1万2千) リューリック(1万) 担当は 上村彦之丞中将の第2艦隊(9千/クラス) 殉難烈士ノ遺骸茲二安眠ス1907年日 本政府此碑ヲ建ツ」とあり、背面には 関東都督大島義昌大将の追悼の辞が 刻まれていた。

「嗚呼。不幸ニシテ命ヲ殞(おと)スモノハ、仇敵タルニ論無ク骼觜(がい)ヲ援埋スルハ、忠義ヲ励マシ而シテ仁愛ノ道ヲ弘ムル所以ナリ、況ンヤ昨ハ仇讐タルモ今ハ友邦タルモノヲす、大日本帝国政府ハ向ニ旅順要軍司令官ニ令ヲ下シ、露国殉難将卒ノ各所ニ仮座スルモノヲ査索シ、礼ヲ以テ小案山子山麓ノ旧露国軍民之墓地ニ改葬シ、仍チ碑ヲ樹テ之ヲ表ハシ、以テ英霊ヲ百世ニ弔ヒ、義烈ヲ千載ニ掲グルガ為メ茲ニ此ノ碑ヲ建ツ」

大島 義昌(おむま・よしまさ)

嘉永3(1850)~大正15(1926) 長州藩出身。陸軍大将。日露戦争で第3師団長。旅順の関東都督、軍事参議官を歴任

山本 五十六(やまもと・ひそろく)

明治17(1884) ~昭和18(1943) 新潟県長岡市出身。海軍大将。大正8年米国駐在。 14年駐米武官。昭和11年海軍次官。14年連合艦隊長官。前線視察中、ソロモン諸島上空で撃墜され戦死。死後元帥。国葬

及川 古志郎(カムカカウ・こしろう)

明治16(1883)~昭和33(1958)岩手県生まれ。海軍大将。横須賀鎮守府長官を経て昭和15年海相。18年海上護衛総長官。19年8月軍令部総長。20年軍事参議官

上村 彦之丞(かみむら・ひこのじょう)

嘉永2(1849)~大正5(1916) 薩摩藩出身。海軍大将。軍令部次長、常備艦隊長官を歴て明治36年12月第2艦隊長官。戦後横須賀鎮守府長官、第1艦隊長官歴任

▽朝鮮海峡で 常陸丸 佐渡丸撃沈(37年6月15日) 死者1736名 捕虜32名 須知源次郎中佐(近麓鮮城1瀬長)は 船上で 連隊旗を焼き 割腹自決した

▽新聞は 一斉に 海軍批判

「運送船に護衛をつけないのは怠慢ではないか」 「日本の内庭に敵が来ているのに、海軍は居眠り しているのか」議会も「国民は戦場に肉親を送 っている。一つも安心できないのは、なぜか」

- ▽7月20日には 津軽海峡を抜け 太平洋へ 房総半島から御前崎沖で 商船7隻を撃沈
- ▽太平洋航路は 完全にストップ

米など生活物資は暴騰 生糸など輸出品は暴落 函館 下北半島では 半鐘を乱打し

山へ逃げ込んだり 銀行の取り付け騒ぎも ▽新聞は「濃霧、濃霧と逆さに読めば無能なり」 ▽上村中将の留守宅には「辞職しろ」「腹を切れ」

「国賊」「露探(ロシアのスパイ)」と 石が投げ込まれた

▽ウラジオ艦隊退散は 7月30日夜

軍令部次長 伊集院五郎中将は 「悪夢二似タル十日間終ル」と 記録している

- ●政府は、新聞の事前検閲で外交、軍事の機密事項については掲載禁止の措置をとったが…
 - ▽至る所に 外国特派員の目 政府の隠しておきたい ニュースも

外国の新聞に出てしまい 隠しておけなかった

▽一番 大きかったのは 新聞紙法改正(30年3月24日) それまでの発行禁止条項は 廃止され

法に触れた日の新聞のみ 発売頒布禁止 ▽新聞は 軍のミスに 遠慮していなかった

- ●与謝野晶子が「君死にたまふこと勿れ」と歌ったのは こうした時代だった
 - ▽「天皇自らは戦場に出ないのに…」

太平洋戦争の時だったら 間違いなく発禁処分 晶子も 憲兵 特高警察に 捕まっていたろう

▽明治37年の「明星」9月号に 発表された

副題に「旅順口包囲軍の中に在る弟を嘆きて」 旅順の第1回総攻撃が 始まった頃だった

伊集院 五郎(ねじゅうねん・ごろう)

嘉永5(1852)~大正10(1921) 薩摩藩出身。海軍大将・元帥。 常備艦隊司令官を を経て明治36年軍令部次長。戦後第1艦 隊長官、連合艦隊長官、軍令部長を歴任

g..... 蔚山沖海戦でウラジオ艦隊撃破

第2艦隊は8月14日、リューリックを航行不能にし、ロシア、グロンボイを大破させた。追撃中に弾薬庫が空になり、参謀長の報告にも、上村は返事しない。黒板に「残弾ナシ、反転然ルベシト考ウ。命令乞ウ」と書いて示すと、「よろしい、然るべくやれ」と命じた途端、黒板をはぎとり床に叩きつけた。

上村は気性の激しい提督だったが、リューリックの戦列落伍を見て、「溺れる者を悉く救助せよ」と命じた。恨み重なるウラジオ艦隊、上村が「あんなに癪にさわっていたのだから捕虜をひどい目にあわせないか、心配だ」と呟くのを聞いて、参謀佐藤鉄太郎中佐(吃納)は「捕虜充分ナル好意ヲ以テ扱へ」との信号旗を旗艦出雲に掲げさせた。627名が救助されたが、ロシア戦史も「日本武士の美徳」として特筆している。

与謝野 晶子(よさの・あきこ)

明治11(1878)~昭和17(1942) 大阪・堺 生まれ。本名は志よう。明治33年来阪し た与謝野鉄幹と知り合い、翌年家を捨 てて上京し、8月に処女歌集「みだれ髪」 を出版、鉄幹と結婚。浪漫的心情と作歌 への情熱を生涯持ち続けた。39年頃か ら小説・童話・感想文など多方面にわた る活動を始め、「新訳源氏物語」全4巻を 出版。文学だけでなく、教育・婦人・社会 問題に関する著述も多く文化学院の創 設に参加し、自らも教鞭をとった

---「君死にたまふこと勿れ」-

あゝをとうとよ 君を泣く 君死にたまふことなかれ 旧家をほこるあるじにて 末に生れし君なれば 親のなさけはまさりしも 親は刃をにぎらせて 人を殺せとをしへしや 人を殺して死ねよとて 二十四までをそだてしや 家のおきてに無かりけり

堺の街のあきびとの 親の名を継ぐ君なれば 君死にたまふことなかれ 旅順の城はほろぶとも ほろびずとても 何事ぞ 君は知らじな あきびとの

君死にたまふことなかれ すめらみことは 戦ひに おほみずからは出でまさね かたみに人の血を流し 獣の道に死ねよとは 死ぬるを人のほまれとは 大みこゝろの深ければ もとよりいかで思されむ

あゝをとうとよ 戦ひに 君死にたまふことなかれ すぎにし秋に父ぎみに おくれたまへる母ぎみは なげきの中に いたましく わが子を召され 家を守り 安しと聞ける大御代も 母のしら髪はまさりぬる



暖簾のかげに伏して泣く あえかにわかき新妻を 君わするるや 思へるや 十月も添はでわかれたる 少女ごころを思ひみよ この世ひとりの君ならで あゝまた誰をたのむべき 君死にたまふことなかれ

●歴史に残る有名な歌は、晶子の思い違いから? ▽2歳下の弟 籌三郎(tゅうざぶう)は どう考えても 旅順には 行っていない

-- 遼陽の戦場へ -----

戦争が始まると、幾つかの師団を集めて軍を 編成するが、旅順攻略に当たった第3軍は、第1 (煎)、第9(紙)、第11師団(蓋詩)で編成され11月 の最後の総攻撃で第7師団(側)が加わった。大 阪・堺が本籍地の籌三郎が入ったのは第4師団 (城)第8連隊。奥保鞏大将の第2軍に所属し、晶 子がこの歌を書いた頃は、軍神・橘周太中佐が 戦死した遼陽の戦場で戦っていた。

▽どの本も 晶子の思い違いそのままに「旅順へ」 佐藤春夫「晶子曼陀羅」(腳29年 組觸外腱) 渡辺淳一「君も雛芥子(コクリコ)われも雛芥子」 ▽軍隊の行動は 当時も 秘密だった

佐藤春夫は「晶子が風聞で

籌三郎は旅順攻略軍にいると思った」 ▽石光真清の手記「望郷の歌」を 読んだとき 「思い違いの原因は、これだ」と

遼 莱 湾 復州 長山列島 金州地峡

奥 保鞏(おく・やすかた)

弘化3(1846)~昭和5(1930) 小倉藩出 身。陸軍大将・元帥。日露戦争で第2軍司 令官。明治39年参謀総長

第8連隊は、弱いことでは定評のある連隊-

西南戦争で負けてばかりいるので、西郷贔屓 の熊本市民が「またまた負けたか八連隊、それ では勲章くれんたい(大戦9戦)」と囃し立てた。 石光は第2軍副官として従軍したが、熊本出身 なので子供の頃にからかった一人だった。

5月5日、塩大澳から上陸した第2軍は、遼東半島で一番狭い金州、南山を占領し、半島の先端にある旅順を孤立させる。その後、旅順攻略は乃木の第3軍に任せ遼陽に向かう予定だった。

ところが26日払暁からの南山攻撃は、機関銃に薙ぎ倒され死傷者続出。3万4千発と、日清戦争で使った砲弾量をたった1日で使い果たし、最後の予備隊も投入する大苦戦に。死傷者4千300の報告を受けた大本営が「数字が一桁違うのじゃないのか」と、聞き返してきたほどだったが、夕方になって第8連隊が砲台の一角に突入し、やっと占領できた。

第8連隊が、血路を開いた名誉回復の大手柄。 自慢話、手柄話は、地元大阪で人の口から口へ と伝わったのでは…。それを耳にした晶子が、 南山は旅順のすぐ傍だから弟がそのまま旅順 へ向かうと思ったのも、無理はない。

▽そこへ 旅順総攻撃が迫り

「駿河屋」という堺の老舗の菓子屋、鳳(ほう)宗 七の三女として生まれた。父親は徘徊もたし なめば本の収集もする趣味人。学問好きで、長 男を東京帝国大学工学部、晶子を堺の女学校、 その下の妹は京都の高等女学校へと明治20年 代の商家としては破格の教育をしている。

父の本棚から、源氏物語など古典を引っ張り 出して読み、8歳から通っていた漢学塾で白楽 天の「長恨歌」の説明をせがむ、ませた少女だった。その頃を思い出し「あなかしこ楊貴妃の

| 橘 周太(たがな・しゅうた)

慶応1(1865)〜明治37(1904) 長崎県生まれ。陸軍中佐。東宮武官、名古屋陸軍幼年学校長を経て日露戦争で歩兵第34連隊第1大隊長。遼陽近郊首山堡攻撃を指揮、重傷に屈せず奮戦し戦死した。死後、海軍の広瀬武夫と共に軍神に

佐藤 春夫(さとう・はなお)

明治25(1892)~昭和39(1964)和歌山県生まれ。詩人・小説家。与謝野鉄幹、晶子に師事、「田園の憂欝」で人気作家に。戦後の作品に「女人焚死(ムルレ)」「晶子曼陀羅」「小説智恵子抄」。昭和35年文化勲章

石光 真清(かしみつ・まきよ)

慶応4(1868) ~昭和17(1942) 熊本県生まれ。陸軍少佐。明治32年中尉の時に語学生としてシベリアへ。予備役になり、ハルビンで写真館を開いて情報収集に当たる。日露戦争では第2軍副官として従軍。戦後世田谷で3等郵便局長をしていたが、ロシア革命で大正6年再び軍の依頼によりシベリアで諜報活動に従事した。長男真人(毎30歳)が昭和33年、手記を「城下の人」「贖野の人」「望郷の歌」「誰のために」の4部作として刊行

白楽天(はくらくてん=白居易)

772~846 中国唐の詩人。官吏をしていたが、高級官僚の権力闘争を嫌い、晩年は詩と酒と琴を三友とする生活を送った。楊貴妃を歌った長恨歌(ちょうごが)は、日本にも早くから伝わり平安朝文学などに大きな影響を与えた

楊貴妃(ようきひ)

719~756 唐の玄宗の妃。才色すぐれ歌舞をよくし、安禄山の乱を逃れる途中、 官兵に縊死させられた ごと斬られんと思ひたちしは十五の少女」と 歌っているが、「十五の少女の願望としてはゆ ゆしい限り」とは佐藤春夫。後年お弟子さんに 「よい歌を詠もうと思ったら恋をしなさい」

●与謝野鉄幹との運命的な出会いは33年8月 ▽翌年6月 鉄幹の許へ奔り

8月には「みだれ髪」で 衝撃的なデビュー ▽文壇に 大きな波紋

「短歌が日本の新しい詩になった」 「害毒を撒き散らす淫らな歌」

●果たして、「反戦の歌」だったのか

- トルストイの反戦論文が下敷きに -

「Bethink Thyself」(よく考えてみよ)と題したトルストイの論文は、明治37年6月27日付ロンドン・タイムズに掲載された。日本では幸徳秋水が「爾曹(なんじら)悔い改めよ」と全文12章を8月7日付「平民新聞」に紹介。

▽「旅順の城はほろぶとも ほろびずとも何事ぞ」

→「旅順の権利が清国だろうと、日本だろうと、 あるいはロシアだろうと、自分の生活には関 係ない」 日本中が 旅順攻略を楽観

▽旅順の苦戦が 内地に伝わるのは 10月に入って

▽一番 問題になったのは

「すめらみことは戦ひに

おほみずからは出でまさね」

トルストイはこう書いている -

戦争の主な責任者であるロシア皇帝は、勅旨 で兵隊を召集するだけだ。心なきロシア皇帝 よ、汝自ら砲弾、銃弾の下に立て。

▽歌壇の大先輩 大町桂月は「乱臣なり賊子なり。 国家の刑罰を加うべき罪人なり」

▽「反戦歌」として 評価する人は

危険を承知で発表した 晶子の勇気を讃え 深尾須磨子も「タブーであった天皇に触れることは命懸けの行為であり、空前絶後のこと」

与謝野 鉄幹(よさの・てっかん)

明治6(1873)~昭和10(1935) 京都府生まれ。本名寛(036)。明治29年詩歌集「東西南北」を出版。32年新詩社を結成し翌年雑誌「明星」を創刊。晶子と結婚し、共に詩歌による浪漫主義運動展開の中心となり、多くの俊才が集まった。44年渡欧してパリに滞在、大正2年帰国。8年から昭和7年まで慶大教授。大正10年には西村伊作らと文化学院を創設した

-- 「人を恋ふる歌」-----

妻をめとらば 才たけて 顔(ぬ)うるわしく 情ある 友を選ばば 書を読みて 六分の侠気 四分の熱

:… 家庭では良き妻、良き母 ……………

「ああ皐月 仏蘭西の野は火の色す 君も雛芥子(コクリコ) われも雛芥子」 ヨーロッパへ渡った鉄幹を追って、 晶子が明治45年5月、パリで再会した 時の歌。コクリコは雛芥子のフラン ス語で英語名はポピー。家庭では5男 6女の大勢の子を育てた。

トルストイ(Tolstoi)

1828~1910 ロシアの文豪。19世紀後半の複雑なロシア社会の実相を描きリアリズム文学の最高峰とされる。また、人道主義の立場から社会・宗教・人生の問題について、求道的、実践的思想家として国境を越え多くの追随者を得た。「戦争と平和」「復活」「アンナ・カレーニナ」

幸徳 秋水(こうとく・しゅうすね)

明治4(1871) ~明治44(1911) 高知県生まれ。本名伝次郎。社会主義者。明治31年「万朝報」論説記者となり日露開戦に反対、退社後平民社を創設し週刊「平民新聞」で反戦の論陣を張る。無政府主義者となり、大逆事件首謀者として処刑

▽文壇 ジャーナリズムの 論争にはなったが 発禁処分になっていないし 晶子が 社会から 糾弾されることも なかった

●「弟よ、死なないで帰ってこい」― 晶子の心の叫び ▽40行の詩に強烈なまでの「親」と「家」 ▽兄秀太郎(煎餌対類紅教物)は

晶子の結婚を許さず 生涯 義絶状態 ▽籌三郎は 父の死で 早稲田入学を断念 「駿河屋」を継ぎ 新婚10か月で召集 ▽晶子は 2人の姉が嫁いだ後は

10年余りも 帳場に座り「駿河屋」を切り盛り ▽晶子の「商人意識」が 堰を切ったように 溢れだしたのが この歌だったのでは…

- 籌三郎は凱旋し昭和20年まで長生き -- 日露戦争といえば旅順、旅順といえば二〇三高地。「二〇三高地へ行ったか」と聞かれ、籌三郎は何と答えたのか。佐藤春夫はわざわざ「戦史を繙くに」と断った上で、「旅順は旅順でも、二〇三高地ではなく盤竜山の攻撃に向かっていた」と書いている。盤竜山は第1回総攻撃で、第9節団が占領した所だが、実際は遼陽へ。

●大町桂月の非難は、雑誌「太陽」(10房)に

▽「義勇公に奉ずべしとのたまへる教育勅語、さては 宣戦韶勅を非議す。国家観念を藐視(かれる)にし たる危険なる思想の発現なり。家が大事也、妻が 大事也、国は亡びてもよし、商人は戦ふべき義務 なしと云ふは、余りに大胆過ぐる言葉也」

▽晶子は 夫鉄幹への手紙の形をとって 反論 「ひらきぶみ」と題して「明星」(11腸)に公開

▽「お上の権威を笠に着て、自由な言論を

圧迫するような風潮こそ、危険だ」

▽「歌は歌に候」― 詩人晶子の 凛とした姿勢

▽論争は さらに続く

読売新聞の文芸時評が 晶子に軍配 桂月が「乱臣賊子」と 感情的な言葉 鉄幹は 38年1月8日 桂月と 立会人を交え 1時間対決

大町 桂月(ぬむ・かがつ)

明治2(1869)~大正14(1925) 高知県生まれ。本名芳衛。詩人・随筆家。「太陽」などに随筆を書き、旅を愛し、美文家として知られた。紀行文に「奥羽一周記」

深尾 須磨子(ふがすむ)

明治21(1888) ~昭和49(1974) 兵庫県生まれ。詩人。与謝野晶子に師事し大正14年~昭和16年フランスなどに外遊。戦後詩集「永遠の郷愁」。平和運動に活躍し、33年「新日本婦人の会」結成に貢献

:··· 晶子の回想 ······

「十二三歳から十年間店の帳簿から 経済の遺繰、雇人と両親との融和まで自分一人で始末をつけた。私は夜なべの終るのを待って夜なかの十二時に消える電灯の下で両親に隠れながら纔(ロイ)かに一時間か三十分の明りを頼りに清少納言や紫式部の筆の跡を偸み読みして育ったのである」 (「繼帳」「尠鮨の事だも」)

-「ひらきぶみ」-

あれは歌に候。この国に生れ候私は、この国を愛で候こと誰に劣り候べき。 私が「君死に給ふこと勿れ」と歌ひ候こと、桂月様太相危険なる思想と仰せられ候へど、当節のやうに死ねよ死ねよと申し候こと、又なにごとにも忠君愛国などの文字や、畏おほき教育御勅語などを引きて論ずることの流行は、この方却て危険と申すものに候はずや。

…歌は歌に候。歌よみならひ候からには、どうぞ後の人に笑はれぬ、まことの心を歌ひおきたく候。 まことの心うたはぬ歌に、何のねうちか候べき。

…新橋渋谷などの汽車の出で候ところに、軍隊の立ち候日、一時間お立ちな され候はば、見送の親兄弟や友達親類

佐藤春夫は言っている -

「あの一詩を戦争否定の詩とか平和主義の詩とか読む現代の流行は、当年それを乱臣賊子の詩と読んだ人があったのと同様に読む者の勝手であろう。しかしそのどちらも同様に作者晶子にとっては恐らく迷惑な事であろう。思うに晶子は、あの詩で、本来、軍人でもない愛弟を戦場で失いたくないという真情を、それが真情であり民の声であるがために何ら顧慮することなく歌い上げただけで…人間性を無視した一世の俗論に抗して一家の真情を吐露したものと見るほうが間違いないように思われる」 (郷34年「延機装記」)

●晶子が一貫して大切にしたのは、人間性であり自由 ▽第1次世界大戦(大正3年)に当たり「戦争」の詩

「どんな犠牲を払うても、今は戦ふべきである」 ▽シベリア出兵(大正7年)に「何故の出兵か」

自衛の範囲を越えた

大義名分のない出兵だと 反対している

- シベリア出兵 ----

大正7年8月、ロシア革命干渉のため日本をは じめ米英仏伊5か国は、チェコスロバキア軍救 援を名目にシベリアに出兵した。9年に連合国 軍撤兵後も日本軍は駐留を続け、内外の非難 の中で撤兵を完了したのは11年10月だった。

▽婦人解放、婦人参政権運動にも 積極的に活動 ▽平塚らいてうが 明治44年9月

日本初の 女性だけによる 文芸誌「青鞜」を 創刊した時「山の動く日来る」の詩

山の動く日来る。かく言へども人われを信ぜじ。山は姑(しばら)く眠りしのみ。その昔に於て山は皆火に燃えて動きしものを。されど、そは信ぜずともよし。人よ、ああ、唯これを信ぜよ。すべて眠りし女(など) 今ぞ目覚めて動くなる。

が、行く子の手を握り候て、口々に「無事で帰れ、気を附けよ」と申し、大ごゑに「万歳」と申し候こと、御眼と御耳とに必ずとまり給ふべく候。

…私思ひ候に、「無事で帰れ、気を附けよ、万歳」と申し候は、やがて私のつたなき歌の「君死に給ふこと勿れ」と申すことにて候はずや。彼れもまことの声、これもまことの声、私はまことの心をまことの声に出だし候とより外に、歌のよみかた心得ず候。

「さて我国は何のために出兵するので しょうか。…英仏が我国に出兵を強要 して、露西亜の反過激派を救援し、少な くも莫斯科(モスクワ)以東の地を独逸勢力 の東漸から独立させたい希望のあるこ とは明らかですが、これは日本軍が自 衛の範囲を越えて露西亜の護衛兵とな るのですから名義は立派なようでも断 じて応じることの出来ない問題です。 露国は露人自身が衛るべきものだと思 います。…無意義な出兵のために、露人 を初め米国から(後には英仏からも)日 本の領土的野心を猜疑され、嫉視され、 その上数年にわたって撤兵することが 出来ずに、戦費のために再び莫大の外 債を負い、戦後にわたって今に幾倍す る国内の生活難を激成するならば、積 極的自衛策どころか、かえって国民を 自滅の危殆に陥らしめる結果となるで (大正7年3月17日「横浜貿易新報) しょうし

平塚 らいてう(ひらつか・らいちょう)

明治19(1886) ~昭和46(1971) 東京生まれ。本名は明(はる)。明治44年婦人文芸誌「青鞜」を発刊、「元始女性は太陽であった」の創刊の辞は、女性解放宣言として反響を呼ぶ。戦後は反戦・平和運動を推進。昭和28年日本婦人団体連合会会長

- ▽らいてうは「お前たちしっかりやれと、 私たちを嬉しがらせた。これこそ巻頭に 載せるのにふさわしい詩だと思った」
- ●「日本武士道はどこへ行ったのか」 ▽東京裁判で来日した オランダの

ローリング判事(東城部が形5人の課を注射砂漿)は 竹山道雄に聞いた「日清戦争や日露戦争のころ の日本軍はの振る舞いは、ヨーロッパでは敬意 をもって取り沙汰されたものだった。ことに団 匪のときには、ヨーロッパ諸国の軍隊が甚だし い狼藉をはたらいたが、初めて世界に知られた 日本軍は模範的だった。それがどうして…」

- 義和団事件(団匪) 一

明治33年、列強の中国侵略に怒った義和団(浄 上師の一派・自讃系の経難)は、「扶清滅洋」をスローガ ンに、民衆を巻き込んで北京に迫った。

日本など8か国は、陸戦隊394人を公使館に集めて列国義勇軍を編成し英公使マクドナルドが総司令官に就任したが、6月22日には完全に包囲された。清国は翌日、列国に宣戦布告して正規兵も攻撃に加わるようになった。

▽北京籠城戦の指揮をとった 柴五郎陸軍中佐 モリソン記者(ロンドン・タイムス/絲績)が報道

ヨーロッパの新聞には 連日

「Colonel Shiba」の大見出し

▽北京は8月14日 8か国連合軍

3万3800人により 解放された

▽ロシア兵など 各国軍隊の掠奪暴行が 横行した中 1万3千の日本軍は 規律正しく 勇敢だった

▽大勢の中国人が「日本軍の管轄地域なら

安全だろう」と 流れ込んできた

▽どの民家も「日本軍がいるとわかれば 掠奪に入って来ないだろう」と

軒下に 競って 日の丸の旗を掲げた

- 日本の出処進退は鮮やかなものだった

事態が緊迫した時、早急に大兵力を送れる国は、距離的にも近い日本しかない。しかし山県 有用首相、元老の伊藤博文は、日本が突出した

青鞜(セムとう) -----

ブルー・ストッキングのこと。18世紀半ば、ロンドンの文学サロンに集まる婦人たちが青い毛糸の靴下をはき、盛んに文学・芸術を論じたことから、森鴎外が平塚らの活動に対して命名したといわれる。

竹山 道雄(たけやま・みちお)

明治36(1903)~昭和59(1984)大阪生まれ。ドイツ文学者・評論家。一高、東大教授を務め、昭和23年に小説「ビルマの竪琴」で文部大臣賞、38年「剣と十字架」で読売文学賞を受賞

マクドナルド(Claude M. Macdonald) 1852~1915 イギリス外交官。公使とし て北京に赴任、義和団事件で列国義勇 軍総司令官。のち初代駐日大使

柴 五郎(しば・ごろう)

安政6(1859)〜昭和20(1945) 会津藩出身。陸軍大将。明治28年イギリス公使館付となり、帰国後清国公使館付武官。義和団事件で北京籠城戦の指揮をとる。 第12師団長、大正8年台湾軍司令官

モリソン(George E. Morrison)

1862~1920 イギリスの記者。明治28年からロンドン・タイムズ北京特派員。大正1年中華民国政府顧問。極東関係の多くの収集図書は「モリソン文庫」として東洋文庫に収蔵されている

イギリス人看護婦ジェシー・ランサムは「激戦になるとすぐ逃げ出してしまうイタリア兵と違って、日本兵はあくまで戦い続けた。絶対といっていいくらい信用できたのは、日本兵だけだった」(塩業線線)

形で出て行けば、誤解、反感を招く恐れがあると慎重だった。イギリスの「出兵費用の一部を負担する」との強い要請で出兵したが、その際山県は、陸海軍大臣に「出兵ノ目的ハ我公使館領事館及帝国臣民ノ生命財産ヲ保護スルニアルヲ以テ専ラ此範囲内ニ於テ動作スベキ事」と通達、派遣の目的を自衛行動に限定した。

治安が回復した10か月後には兵力を6千に半減させた。英仏が既得権を得ようと増強、ドイツに至っては1万7千人と40倍近くにしたのとは大違いだった。戦死者757人のうち日本軍は349人と一番大きな犠牲を出しながら、賠償要求も控えめだった。賠償金配分はロシア29%、ドイツ20%、フランス16%、イギリス11%に対し日本は7.7%に過ぎない。

▽こうした信頼 好感が 日英同盟締結(35年1月)に マクドナルドは 初代駐日大使になると 同盟締結を促進 日英協調に尽力した

●会津藩は京都守護職を務め、朝敵として苛酷な処分▽30万石 実高67万石が 本州最北端

下北半島 斗南(とぬ)藩3万石に 藩ごと島流し ▽いくら耕しても 実らぬ火山灰地 実質7千石 4千戸の藩士を 養わなければならなかった ▽北海道開拓 カリフォルニアへ 移住した藩士も

●賊軍子弟の救済に奔走した人がいた ▽熊本藩出身の 野田豁通(0ぼ・ひろみち)

石光真清の叔父で のち陸軍省経理局長 男爵 ▽東北各県の役人をしながら

少しでも見所があれば 積極的に援助の手 柴五郎少年も 斎藤実 後藤新平も

県庁の給仕をしている時 野田の書生として働きながら 世の中へ

gm 五郎は明治5年8月、13歳の時上京 mmmg

斗南藩大参事山川浩(斜霧彩)の家に世話になったが、もう冬だというのに、出てきた時の白地の浴衣1枚。見兼ねた浩の母が出してくれたのが、米国留学中の末娘捨松の着物だった。薄

北京観光中、騒ぎに巻き込まれたア メリカ人女性ポーリー・スミスも「柴 中佐は小柄だが、素敵な男でした。彼 が信頼されたのは、一に彼の知力と 実行力によるものです」(粽の輪裏)と、 フランス語と英語を駆使して各国兵 士をさっそうと指揮する柴五郎を、 驚きの目で書いている

タイムズは社説で「日本兵の輝かし い武勇と戦術が、北京籠城を持ちこ たえさせた」と称賛した。

伊藤 博文(いとう・ひろぶみ)

天保12(1841)~明治42(1909)長州藩出身。明治18年初代首相に就任し4次の内閣を組織。憲法制定など、元老として国家体制を整備。ハルビンで暗殺される

- 飢えと寒さの地獄だった ---

柴五郎は当時9歳。掘っ立て小屋の板敷きには畳がないのでムシロを敷き、障子はあっても貼る紙がなく米俵をくくりつけた。夜寝る時も、米俵にくるまって寒さをしのいだ。大豆、ジャガ芋を入れたお粥を啜る。それさえなくなり、蕨の根っこを乾燥させ団子にしてかじった。地元の人は、突然よそからやって来た流浪の武士集団を「毛虫侍」と呼んで軽蔑したという。

食卓にはよく犬の肉が出た。いくら噛んでもノドを通らず吐き出そうとすると、日頃温厚な父親が「それでも武士の子か。会津の武士が飢え死にしたと笑われるのは、末代までの恥辱だぞ。薩長の下郎どもに一矢報いるまでは生き抜け、生きて残れ。会津の恥を雪ぐまではここは戦場なるぞ」と、厳しく叱りつけた。会津では五郎の母と祖母、兄嫁に姉と妹と、5人の女性が自決していた。

西南戦争の時、五郎は日記に「芋征伐仰せ出されたと聞く。めでたし、めでた

紫の木綿地に裾模様、桃色の裏地。一目で女物 とわかる異様な格好で、五郎は「暖かければ何 でもよい」と、街中を歩いたという。

たまに出る豆腐と煮豆がご馳走。山川がある日、五郎に頭を下げたのは、預けておいた虎の子の13円50銭をしばらく貸してほしいということだった。五郎が快く承知すると、山川と母の喜びようは大変なもので、元家老の家もそれほど苦しかった。五郎にとり「わが生涯最良の日」は、陸軍幼年生徒隊(の5ヶ洋)の合格通知を受け取った時。これで食べる心配がなくなり、陸軍将校になる道が開けた。

- ●骨身にこたえるほどの貧乏の辛さが、明治のエネル ギーを生み、シンのある人を育てた
 - ▽原敬は 単衣を3枚重ね着し 寒空に震えていた 海軍兵学校を受けたが 落ちてしまう
 - ▽若槻礼次郎も 小学校の代用教員をしていて 士官学校を受験したが 体格検査ではねられる 回顧録に「この時の失望は、

見るもあわれであったろう」

▽2人とも 学費だけはかからない

司法省の法学校(糠炭学)に入り 総理大臣に ▽秋山好古は「ただで食べさせて

勉強させてくれる」と 陸士に入り騎兵将校に ▽みんな 賊軍の子弟だった

世の中へ出るには 学問をして 知識 技術を 金がないから 官費の学校へ入った

●海外に留学生を送り、知識吸収に懸命になった時代 ▽黒田清隆(蘇離線)は

広く 賊軍子弟からも人材を集め 推進した

- 榎本武揚を救ったのも黒田 -

函館五稜郭を攻めた時、最後まで戦い続ける 榎本に惚れ込み、「何とか助けて日本の将来に 生かしたい」と帰順させた。ところが新政府内 から「極刑にしろ」との声が起こり、黒田は頭 を丸めて、ひたすら助命を懇願したという。 し」と書いている。大勢の会津武士が遺恨10年を晴らすべく、志願していった。 会津の人にとって朝敵の恥が雪がれた のは、昭和3年に勢津子姫が秩父宮妃殿 下として嫁がれた時だったという。

山本五十六が、昭和14年に連合艦隊長官になった時、郷里の親しい友人に「日本の連合艦隊司令長官が長岡藩から出たということを、君は胸においてくれるだろうね」と書いている。

斎藤 実(さねとう・まこと)

安政5(1858) ~昭和11(1936) 陸奥水沢 藩出身。海軍大将。明治39年西園寺内閣 海相となり5代の内閣に留任、在任9年。 大正8年と昭和4年に朝鮮総督。7年首相 となり10年内大臣。二・二六事件で暗殺

後藤 新平(ごとう・しんべね)

安政4(1857) ~昭和4(1829) 陸奥水沢藩 出身。須賀川医学校を出て、内務省衛生 局長、台湾民政長官。明治39年初代満鉄 総裁。逓信相、内相、外相、東京市長を歴 任。関東大震災後に山本内閣内相、東京 復興計画を立案、推進した

山川 浩(やまめ・ひろし)

弘化2(1845)~明治31(1898) 会津藩出身。慶応2年幕府から選ばれ、露独仏3国を視察。帰国後家老。会津戦争に敗れ斗南藩大参事として移住、授産に尽力。西南戦争に参謀として従軍、陸軍少将。高等師範校長、貴族院議員を歴任した

山川 捨松(やまかむ・すてまつ)

万延1(1860)~大正8(1919)山川家の五 女。幼名咲子。明治4年アメリカに留学、 ヴァッサーカレッジを卒業し15年に帰 国。16年陸軍卿大山巌と結婚 ▽北海道開拓使次官になって 考えたのは

若者を留学させ 知識と体験を 開拓に生かす ▽当時の政府留学生は 薩長の子弟に限られ

情実で選ばれる者も多く 遊んでばかりいる ▽「賊軍の会津、庄内からも選ぶべきだ」と主張

斗南藩が推薦してきたのが 山川浩の弟健次郎 ▽明治4年正月 健次郎は 黒田と共に渡米

エール大学で3年間 物理を学ぶ 「会津が 敗れたのは科学知識に遅れをとったからだ」

- 黒田の提案で女子留学生派遣 --

黒田はアメリカで、女性が明るく生き生きと男性とも対等に意見を交わすのを見て感心した。日本の近代化には賢い女性を育てること、それには女子教育こそ近道だ ― 旅費、学費、生活費は一切官費で、年800^k,の小遣い(軈の地が160時間は)と、鳴り物入りで募集したが、集まったのは15歳を筆頭に5人。留学期間10年に恐れをなしたのか、薩長は1人もいなかった。

明治4年11月、岩倉使節団と渡米したが、最年少は津田梅子の7歳。父親は日本に西洋農法を採り入れた津田仙(監修)。山川捨松は11歳だったが、母親は「お前を捨てたつもりで遠いアメリカへやるが、立派に学問を修めて帰って来る日を毎日毎日心待ちにしている」。咲子を捨松に改めさせた2つの文字には、こんな切ないほどの母親の気持ちがこめられていた。

5人の娘の父兄はみんな外国経験を持っていた。自分たちは敗れて日陰の身だが、娘や妹たちに西洋の学問と知識を身につけさせておけば、日本がそれを必要とする日が必ず来る、と思ったのだ。津田梅子は女子英学塾(郷曜太)を創立、日本の女子教育の先駆者になった。捨松は大山巌(曙鬱の鶯雕綱領)夫人になる。

●柴五郎は「この戦は残念ながら負け戦です」

▽日本の敗戦を 見届けたように

昭和20年暮れ 86歳で亡くなった

▽「近ごろの軍人はすぐ鉄砲を打ちたがる。国の運命 を賭けた戦はそのようなものではない」

原敬(战·战)

安政3(1856)~大正10(1921) 南部藩家 老の家に生まれる。明治35年衆院議員。 逓信、内相歴任。大正2年に政友会総裁 となり、7年初の純政党内閣を組織、「平 民宰相」と呼ばれたが、東京駅で暗殺

若槻 礼次郎(カカンフき・オィムじろう)

慶応2(1866) ~昭和24(1949) 松江藩出身。蔵相、内相歴任。大正15年首相、金融恐慌で辞職。昭和6年再び首相となるが満州事変で8か月で辞職。重臣として終戦和平に尽力。著に「古風庵回顧録」

秋山 好古(あきやま・よしふる)

安政6(1859)~昭和5(1930)伊予松山藩 出身。陸軍大将。明治20年フランスに留 学。日露戦争で第1騎兵旅団を率いてコ サック騎兵を破る。騎兵監、教育総監

黒田 清隆(くび・きよたか)

天保11(1840)~明治33(1900)薩摩藩出身。五稜郭の戦いで戦功を立て中将。開拓次官を経て、明治7年参議兼開拓長官となり北海道開拓に当たる。21年第2代首相に就任したが条約改正交渉に失敗し辞任。28年枢密院議長

榎本 武揚(えのもと・たけかき)

天保7(1836) ~明治41(1908) 江戸生まれ。文久1年オランダに留学して海軍技術を学び、帰国後幕府海軍奉行。新政府に軍艦引渡しを拒否し全艦隊を率いて脱走、函館五稜郭に籠もり抗戦したが、明治2年帰順。5年特赦され7年海軍中将兼特命全権公使。樺太・千島交換条約締結。逓信・文部・外務・農商務相を歴任

山川健次郎(やまかわ・けんじろう)

安政1(1854)~昭和6(1931) 浩の弟。会 津戦争で白虎隊に加わる。明治4年渡米

- ▽「中国という国は、鉄砲だけで片付く国ではない。 中国人は信用と面子を尊ぶ。日本は彼らの信用を 裏切ったし面子も汚した。こんなことで大東亜共 栄圏など口で唱えても、彼らはついて来ない」 ▽「ある明治人の記録(鎌州無め)書)」石光真人編著
- ●ローリング判事は「昔の日本が捕虜を遇するに礼を もってしたことは、世界に認められたことだ」 ▽日露戦争の時は 全国29か所に「俘虜収容所 ▽中でも 松山(鷗)は ロシア兵が

「マツヤマ」と言いながら 両手を挙げてきた 市内を 自転車で乗り回したり 道後温泉へ ▽読売新聞は「在留露人を優遇せよ」(37年2月9日)

- 「不平等条約」改正に苦闘した時代 -

安政5年(1858)に結ばれた「安政の五条約」(米 職拠)は、不平等を絵に描いたようなものだっ た。外国人が犯罪をしても裁判権がなく、関税 も一律5%に抑えられた。治外法権を撤廃させ たのが明治32年7月、関税自主権回復に至って は44年2月になってからだった。

山本海相は日露開戦が決まると、艦隊長官、司令官に大臣訓示を打電させた。「我ガ軍隊ノ行動ハ、常二人道ヲ逸スルガ如キコトナク、終始光輝アル文明ノ代表者トシテ恥ズルトコロナキヲ期セラレムコト、本大臣ノ切ニ望ムトコロナリ」 文明国として認めてもらうため、陸軍士官学校でも海軍兵学校でも日露戦争の頃までは国際法の時間をたっぷりとって教えていたし、軍隊もよく国際法を守った。

●「戦陣訓」が、国際法の勉強不足、捕虜虐待に… ▽「捕虜になったら死ね」

この流れを作ったのが 昭和7年の上海事変 ▽重傷を負って 中国軍の捕虜になった

第9師団(銀)大隊長 空閑昇(パルのぼる)少佐が 停戦協定で送還後に ピストル自決した

▽荒木貞夫陸相は 大臣談話を発表

「最高の軍人精神を発揮して、死の道を 選んだのだろう。立派な名誉の戦死だ」 しエール大学に学ぶ。8年に帰国後12年 東大初代物理学教授。34年東大総長。九 州大、京大総長を歴任。大学教育の確立 に努めると共に、田中館愛橘、長岡半太 郎など多くの物理学の人材を育てた

津田 梅子(フビ・ラルン)

元治1(1864)~昭和4(1929)津田仙の二 女で江戸生まれ。明治4年7歳で渡米。15 年帰国、華族女学校で英語を教える。22 年再度渡米し、33年女子英学塾(騨曜太) を創立。国際人としての女性の育成、女 子英語教育の発展に貢献した

津田仙(つだ・せん)

天保8(1837)~明治41(1908) 佐倉藩出身。蘭学を修め幕府外国奉行に出仕、慶応3年渡米し、西洋農法を日本に採り入れる。明治9年農業近代化と人材育成に農社農学校設立。盲唖教育にも尽くす

- 朝日新聞の記事(鴨38年4月27日的) -----

「静岡収容の俘虜に自由散歩を許可するとともに、同市二丁目の遊廓へは必ず彼等の浮かれ込むは必定と見越したる娼伎連は敵国の男に玩ばるるは戦で負けるより辛い話と…客にはするな遊ばすなと決議一致なしたるにより、同廓内の娼伎一同これに做い、楼主よりこの由をその筋へ申し出たりと。近頃殊勝の心がけなり」

戦陣訓

支那事変の長期化に伴い、戦場での 規律、道義的行動を実践させるため、 東条英機陸相が昭和16年1月、全軍に 配布した修身書。特に「名を惜しむ」 の「生きて虜囚の辱を受けず、死して 罪禍の汚名を残すこと勿れ」が、玉砕 や特攻の悲劇を生む原因にも。

- ▽空閑は 軍国美談の主人公として 映画にも ▽日本の軍人には「勝利か死か」しかなく 「捕虜は許されない」風潮が 出来上がった
- ●日露戦争の頃も、誰もが「捕虜は恥」と思っていた ▽それは 一人一人の 心の問題であって 国家が「死」を強制する思想は なかった ▽政府は 開戦後すぐ ハーグ条約に基づき 「俘虜情報局」を設置 ロシアと 捕虜情報交換

▽ロシア軍捕虜は 8万6千

▽日本は 奉天の戦いで重傷を負い 捕虜になった 村上正路大佐(新輝)以下 2088人 ▽日本軍捕虜の多くは

メドヴェージ村(ᡢハウルウとモスクワロサイサ)に収容 ▽捕虜の扱い 処分に「明治の日本」が表われている ▽捕虜の留守宅には 毎月 給料が届けられた 死亡捕虜44人の遺族には 遺族扶助料 ▽政府にも 軍にも「捕虜は公務中」の認識

●東郷司令長官は、旅順口閉塞作戦で捕虜になった隊員の勇気を讃えた

- 命懸けだった閉塞作戦

旅順のロシア艦隊を、狭い港の出入口にボロ船を沈めて出入りできないようにした作戦だが、砲台に囲まれた中を突入するのだから、軍神広瀬武夫中佐が戦死したように決死の作戦だった。東郷はこの作戦が提案された時、危険が多過ぎると、簡単には首を振らなかった。

夜間の作戦とすること、沈めに行く船に水雷 艇1隻ずつをつけ隊員収容に当たらせること。 隊員救出に手を打った上で、やっと許可した。 それでも5月3日の第3次閉塞作戦は、戦死6名、 生死不明74名。うち17名が捕虜になった。

▽旅順陥落で 閉塞隊員17名が 解放された時 東郷は 全員に 木杯と時計を贈った

・木杯には東郷自作の歌 ――――勇ましく 仇の港を閉ざしつる君がいさをは 千代も薫らむ

荒木 貞夫(あらき・さだね)

明治10(1877) ~昭和41(1966) 東京生まれ。陸軍大将。昭和6年犬養内閣陸相。斎藤内閣にも留任し精神主義的言動で皇道派青年将校の指導的存在に。近衛、平沼内閣で文相。東京裁判で終身禁固刑、29年仮釈放になった

- ハーグ条約 -

国際紛争平和的処理条約・戦争放棄 に関する諸条約で、明治32年7月29日 調印された。日本は、ロシアの利益代 表・日本駐在フランス公使を通じて、 ロシア軍捕虜に関する情報を10日ご とにロシア政府に伝達した。

ロシア側も、日本の利益代表である ロシア駐在アメリカ大使を通じて適 宜通報、両国とも、自国の捕虜に関し ては随時正確な情報を掴んでいた。

···· 軍の処置は寛大だった ······

捕虜第1号は韓国義州領事館付武官の東郷辰二郎陸軍少佐。処分で明暗を分けたのは、「戦闘部隊と一緒に行動していたかどうか」。東郷は開戦直後「国境付近のロシア軍の動静調査」を命じられ、領事館に憲兵5人と留まっていて捕虜になった。憲兵は戦闘部隊ではないので帰国後の審問会議でも、「捕まったのは任務遂行中の不注意」と謹慎30日。しかも情報が軍の作戦に役立ったとして金鵄勲章を授けられ、少将にまで昇進している。

対照的だったのは、輸送船金州丸の 将校8人。37年4月25日夜、元山沖でウ ラジオ艦隊に撃沈され、多数の死者、 捕虜を出した。1個中隊を輸送中だっ たため、全員が免官処分に。戦争が終 わって1年後、官報にさりげなく発表 されたが、軍法会議にかけられた者 はなく、行政処分だけだった。 ▽時計には「贈第三回閉塞隊員○○君 東郷大将」 個々に 隊員の氏名が 刻まれていた

- 一般社会は… -

読売新聞は37年11月24日付社説で「大いに我 在露捕虜を慰むべし」。翌日社告で慰問品を呼 び掛けると、フランスを通じて送ったので、社 員が総出でフランス語の宛名書きをしたほど たくさんの慰問品が集まった。

冷たかったのは狭い地域社会の目。第10師団 (脳)は、奉天の戦いで壊滅的打撃を受け、負傷 者を前線に残したまま退却し多数の捕虜を出 した。憲兵の帰国捕虜調査では「本人モ大二謹 慎シ何等戦況ヲロ外セズ」。また捕虜だという 近所の陰口で、転居した例も報告されている。

▽ハルビンの ロシア軍墓地には 病死した日本兵捕虜の 墓標が建っていたが 架空の連隊名ばかり 氏名も変名だった

- ●長谷川伸の「日本捕虜志」は、日露戦争のこんな情景 から始まっている
 - ▽中隊に 連絡が来た「ロシア兵を二人捕虜にした ので、希望者は見学に来い」
 - ▽中隊長が 兵隊を集め 見に行くかどうか 尋ねると 半数の者が 手を挙げない

- ある一等卒(-- 等)が答えた ---

「気の毒です。武士は相身互いであります。自 分は職人でしたが、軍服を着たからには日本 の武士であります。敵ながら武士であるもの が運悪く捕虜になって、あっちこっちと引き 回され、見せ物にされねのは、さぞ残念至極で ありましょう。見学に行って辱めたくありま せん」 中隊長は 見学を中止した。

▽長谷川伸は「その頃の日本人の間には、 この一等卒と同じ心の線を 心に抱いているのが正常だった」 ▽鈴得巌少尉は 奉天の戦いで 重傷を負い 「もうこれまで」と 軍刀でノドを刺したが 気が付くと ロシア軍のベッドだった

広瀬 武夫(ひろせ・たけね)

慶応4(1868) ~明治37(1904) 大分県生まれ。海軍中佐。明治30年ロシアに留学し厳冬のシベリアをソリを乗り継ぎ帰国。旅順口第2次閉塞作戦で戦死、軍神と称揚され神田須田町に銅像が建つ

:···· 石光の手記「曠野の花」から ···········

明治35年夏のこと。旅行中に突然ロシ ア兵に呼び止められ隊長の所へ連行さ れた。隊長は「この町を占領した時、清 国の監獄に日清戦争の日本兵捕虜が収 容されていた。衰弱がひどく野戦病院 で手当てしているが、一言も口をきか ない。周りの囚人も、六年間も黙ったま まなので聾唖者だと思っている。君な ら、同じ日本人同士、心を開くだろう」 捕虜は骨と皮だけに痩せこけ、石光が 「僕は日本人だ」と声をかけても、静か に両目を開いただけですぐ閉じてしま う。石光が足をさすり、頭を撫でながら 「君の精神は立派だ。ただ一言、一言で よい。話してくれたまえ」と言うと、閉 じた両眼から大粒の涙が流れ出した。 石光は一睡もせずに「君のお陰で日本 は大勝利だった」と語り続けたが、捕虜 は翌朝、何も言わずに息を引き取った。 野戦病院の院長は「彼は六年ぶりに日 本語を聞き、日本人の顔を見て、そして 日本人に看護されて嬉し涙に暮れた。 恐らく故郷に帰って肉親に介抱されて いると思いながら死んだのだろう」

長谷川 伸(趾拗・しん)

明治17(1884)~昭和38(1963)横浜生まれ。小学校を2年で中退し小僧など職業を転々とした後、都新聞記者。代表作に「瞼の母」「一本刀土俵入」。自宅で「新鷹会」(しんようか4)を開き、後進を育てた。「日本捕虜志」では菊地寛賞を受賞

▽唇を噛んで 自殺を測ったが 果たせない
▽2、3日して 枕元に現われたのが
騎兵団司令官の ミシチェンコ中将
「ロシア軍は撤退するが、少尉をこのままここに
置いていくから、自由に部隊に帰ってよい」
▽豪胆さを褒め 血痕のついた軍刀を 返してくれた
鈴得は帰国後 群馬県の三郷村長に

●東京裁判で、南京虐殺事件の責任を問われた松井石根大将は、死刑判決に「大変嬉しい」 ▽松井は教誨師を務めた

花山信勝東大教授に 語っている

- 松井大将の言葉 ---

「南京入城の後、慰霊祭の時に、シナ人も一し ょにと私が申したところ、参謀長以下何も分 らんから、日本軍の士気に関することでしょ うといって、師団長はじめあんなことをした のだ。自分は日露戦争の時、大尉として従軍し たが、その当時の節団長と、今度の節団長など を比べてみると、問題にならんほど悪いです ね。日露戦争の時はシナ人に対してはもちろ んだが、ロシヤ人に対しても、俘虜の取扱いそ の他、よくいっていた。今度はそうはいかなか った。武士道とか人道という点では、当時と全 く変っておった。慰霊祭の直後、私は皆を集め て軍総司令官として泣いて怒った。折角皇威 を輝かしたのに、あの兵の暴行によって一挙 にしてそれを落してしまった、と。ところが、 このことの後で皆が笑った。甚だしいのは、あ る師団長の如きは「当り前ですよ」とさえ言っ た。従って、私だけでもこういう結果になると いうことは、当時の軍人達に一人でも多く、深 い反省を与えるという意味で大変に嬉しい」

▽空襲が激しくなった頃 原稿は400枚ほどに 空襲警報の サイレンを聞いては スーツケースに詰めて 自宅前の穴に埋めた 解除を聞いては 掘り出し 書き足した ▽たとえ 自分は死んでも「日本人に 語り継ぐべき資料」を 残そうとしたのだ

····「日本捕虜志」··················

日露戦争を中心に、日露両軍の捕虜 の話を、回顧録、手記などから丹念に 拾い集めたもの。原稿を書き始めた のは支那事変の頃。戦地へ行った弟 子たちの話を聞くうちに、「どうも日 露戦争の時と違う」が、動機だった。

松井 石根(キンム・ムカカム)

明治11(1878)~昭和23(1948)名古屋生まれ。陸軍大将。第11師団長、昭和8年台湾軍司令官。10年予備役となったが、12年支那事変勃発で現役に復帰し中支那方面派遣軍司令官兼上海派遣軍司令官に就任、南京攻略戦の指揮をとる。戦後南京虐殺事件の責任者としてA級戦犯に指名され、刑死した

花山 信勝(はなきもしんしょう)

明治31(1898) ~平成7(1995) 金沢生まれ。日本仏教史を専攻、昭和21年東大教授。巣鴨拘置所教誨師となり、A級戦犯処刑に立ち合う。著に「巣鴨の生と死」

・長谷川伸の後記から ―

これは日本に関する捕虜に就て、世界無比の史実を闡明し、どの程度かは知らず残存する日本人の間に、語り継ぐべき資料を遺さんとした。その故にこの草稿を地中に埋め、降りそそぐ戦火を避けたのである。地中の物はいつの時にか何かのことあって掘返されることがある、然らばたれかがこの未完成の稿本を、いつかは発見して完成してくれるだろう。